

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,28 2018年 秋号

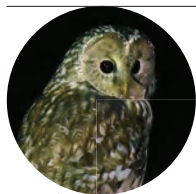


鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い②⑧「ホモサピエンス鳥の恩恵」
突撃！鳥海イヌワシみらい館⑩ ナチュラリスト 西澤信雄氏
蜂蜜の森から⑦「アシナガバチ移住作戦スタート！」

「イヌワシ」鳥海山にて撮影：阿部治雄



フクロウ

Bird-watching

バードウォッチングへの誘い 28



ドバト

ホモサピエンス鳥の恩恵

私たち人間は、昔から鳥を観察し、空を飛ぶことへのあこがれや、猛禽類の強さを目の当たりにすることで、神格化したり敬ってきました。テクノロジーが発達した現代では、科学的に鳥類を見ることで、様々なものに鳥類が持つ特徴や能力を応用する試みが始まっています。バーダーの皆さんから、未来を変えるテクノロジーが生まれる日も近いかもしれません。

過去における鳥の利用

【弓矢の矢羽】

羽軸を中心に左右非対称で、かつ丈夫である尾羽が最も矢羽として重宝されました。



矢羽：荘内神社所蔵

【鷹匠】

飼いならした猛禽類を使って狩りをしていました。



鷹匠 沓澤朝治
写真提供：真室川町歴史民俗資料館

【伝書鳩】

ハトの帰巢本能を利用したものです。

【羽飾り(ウォーボンネット)】

インディアンの羽飾り。現代では羽を使ったインディアンの文化としてドリームキャッチャーが広く認知されています。



羽飾り

現代における鳥の利用

【フクロウ】

青森県では、リンゴの苗木を食害するハタネズミに対する生物兵器として農家が導入しています。

【糞】

海では集団営巣するカモメなどの海鳥類が排泄した糞尿(グアノ)によって、周辺海域の藻類が育ち、ウニなどの海産物を育てています。



海鳥の糞にまみれる繁殖地

現代で応用されている鳥のバイオメティクス(生物模倣)

【新幹線500系】

時速300kmで走行する新幹線500系は、先頭車両をカワセミのくちばしの形状に模倣することで空気抵抗を少なくして、トンネル通過時に発生する「トンネルドン」を低減していることに加え、フクロウの羽の構造をパンタグラフに備えることで、風切り音を少なくしています。

【飛行機】

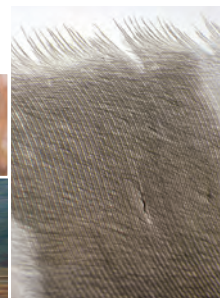
16世紀にレオナルド・ダ・ヴィンチも飛行について研究していました。ライト兄弟が初めて飛行に成功したのは1903年、ほんの100年前です。



新幹線500系／写真提供：JR西日本



カワセミ



フクロウの羽



レオナルドの飛行機研究

鳥を知り尽くした人のみらいは？

【ハチクマによるハチに刺されない虫よけ】

NHKテレビ番組「ダーウィンが来た！」(「衝撃! ハチクマ軍団vsスズメバチ軍団」2014年4月20日放映)によれば、ハチクマはハチが攻撃しなくなるフェロモンを出している可能性があるとのこと、もしその存在が確認できればハチに刺されない薬ができるかもしれません。



かかってこいやー!

ハチクマ

【人が自ら空を飛ぶ?】

ホモサピエンスの長所でもある「創意工夫」の極み。鳥人間となって自らの力で空を飛ぶようになるかもしれません! 日本では約600種が確認されている鳥類ですが、面白い習性を持つものも多いです。その中に新しいテクノロジーへのヒントが隠されているのかもしれません。



鳥人間コン

やー!

庄内の動物情報コーナー

今年も秋の台風がいくつか列島を通過していきましたが皆さんの地域では大きな被害はありませんでしたでしょうか？山形県の庄内地方は暑い夏が過ぎて、過ごしやすい秋はあっという間に過ぎていきます。ちょうど庄内柿の収穫も終わって、民家の軒先には茶色くなった干し柿がぶら下がっています。冬の訪れを感じさせる光景です。しかし、今年の月山の初冠雪、山形市での初氷はともに平年に比べ15日前後も遅いとのことでした。今年の冬はどうなることやら。情報や写真の投稿はmoukin@raptor-c.comまで。



2018/7/31 「オオスカシバ」酒田市
鮮やかなウグイス色！蛾と聞くとがっかりするかもしれませんが、名前の通り羽に鱗粉がなくて透明なので、触っても汚れなくて良いんです。ハチに似たカラーリングは「俺って危ないんだぜ！」と主張するベイツ型擬態です。撮影：齋藤孝孝様



2018/8/28 「シロハラミズナギドリ」酒田市
酒田市は港に近い市で、海鳥類もよく飛んでいるのですが、これまで見たことの無い鳥が救護されたとのことで問い合わせがありました。夏はオホーツク海等で暮らしているようですね。撮影：酒田市環境衛生課



2018/9/11「アオバト」山形県遊佐町
声はすれども姿は見えず。林の間から遠くを見ますと・・・いた！鮮やかな緑色に固唾をのんで撮影した1枚！（・・・のような気がしています。）撮影：渡会様



2018/10/27「ルビーキウイタダキ」酒田市でた～！なんと日本で初確認となった鳥。普段は北米にいるそうです。目の周りの白い模様が楕円で、人の目のように見えますね。「あれ？メーブルの匂いがしない！」と思ったことでしょう。撮影：築川堅治様



2018/10/30「コウノトリ」酒田市
宇宙にいる「こうのとり」からカプセルが放出され、無事大気圏を突破して回収に成功しました。酒田市にも幸せを運ぶコウノトリがやってきてくれました。撮影：阿部治雄様



番外編 2018/7/30「アオバズク」富山県
青葉の茂るころにやってきて繁殖するからアオバズク。羽角がほとんどないミミズクの仲間です。フクロウ類の特徴である対趾足がしっかりと観察できますね。撮影：田畑様



番外編2018/7/30「ハコネサンショウウオ」秋田県にかほ市
東北にいるからトウホクサンショウウオ、箱根にいるからハコネサンショウウオ？日本のサンショウウオでは最も分布域が広いとのこと。撮影：後藤勇様



番外編2018/9/14「サシバ」新潟県小千谷市
秋の風物詩サシバの渡り。初めて渡る姿を見たとのことで、投稿してくださいました。これからもぜひ地元での観察を続けていただきたいです。撮影：波多様



番外編 2018/9/24「マダラナニワトンボ」新潟県
日本国内でも局所的にしか生息していない珍しいトンボです。山形県にも生息していますが、お隣の新潟県にもいるようです。撮影：たっちん様

Interview

突撃! 鳥海イヌワシみらい館 10

ナチュラリストと聞いて仙人のような方を想像していましたが、気さくにインタビューに応じてくれました。しかし西澤さんのお話を聞いているうちに、深い洞察力で世の中を達観しているという印象を受けました。日常の暮らしで消耗したという人も、朝日鉱泉の大自然の中で、贅沢な時間をナチュラリストと過ごしてみてもいいのではないでしょうか。

朝日鉱泉ナチュラリスト 西澤信雄さんに聞く



西澤信雄 ● にしざわ のぶお

1948年生。滋賀県出身、山形県西川町在住。「朝日鉱泉ナチュラリストの家」代表。2011年より、公益社団法人・日本シェアリングネイチャー協会代表理事。著書に「ブナの森から都会が見える」(山と溪谷社)「ブナの森通信 ～朝日連峰 山小屋からの報告～」無明舎出版など多数。

—— 昔から自然に興味があったのですか？

特に自然が好きなお子供ではなくて、優秀な普通の子供でした(笑)。自然観察の会でも一番自然に対する知識がない子供で有名でした。

—— その普通の人がどうしてナチュラリストになったのでしょうか？

大学では土木を専攻しており、そのころから自然を意識しました。卒業して社会運動の一環だと思い日本ナチュラリスト協会を立ち上げました。^(※1) ナチュラリストとは自然をただ好きな人、知っているだけの人ではありません。社会を良くしようと活動をしている人のことで、「自然の中に人間が見え、人間の中に自然が見える人。」です。

—— 山形に来られたのはこういった経緯ですか？

西川町の故・志田忠儀さん^(※2)と知り合ったことが大きいです。そして日本ナチュラリスト協会^(※3)で都会の子供たちを朝日町に連れてきて環境教育をしていました。朝日鉱泉は江戸時代の開湯で、私が来た当時は廃業していましたが、復活させて「ナチュラリストの家」として経営しています。

—— 公益社団法人シェアリングネイチャー協会^(※3)の代表理事であり、ご自身も指導者として活動していますが子供たちの反応はどうですか？

ネイチャーゲームはすごいです。「こんなことができる子だったの!？」と学校の先生もびっくりすることが度々



あります。自然は知識だけでは護れません。五感を使って体験することで自然の大切さを感覚的に味わうことが、本当の意味での自然保護につながるのだと思います。シェアリングネイチャー協会では自然を感じて分かち合うことが大事だという理念なので、学問の世界でいう間違いという概念がありません。心の平安を見出して社会を作る原動力になってほしいと考えています。

—— 朝日町に日本初のエコミュージアム(平成元年～)を作ったのはなぜですか？

「環境教育で地域おこしができるか」というテーマで全国の会合に参加していました。その会合で「地域の文化や産業、自然などを地域の子供たちに教えているが、大人も見ろべきだ」という話をしたら、平塚市博物館の学芸員が「フランスで始まった“エコミュージアム”と同じだ」と教えてくれて、現地視察も行って立ち上げました。しかしフランスの格言で「エコミュージアムと民主主義は実現しない

目的である」とあります。民主主義も理想に近づけそうでなかなか実現しません。同じくエコミュージアムも“ここまで行ったら”というゴールがありません。

—— 周辺の環境変化は感じていますか？

野生動物では朝日町にもシカやイノシシが入ってきています。あと鳥が減った気がします。昔、若い人に「最近〇〇見なくなったよね。」と聞きますと、「『そうだよね。最近見ないよね。』と言っているうちに絶滅していくのだ。」と言われました。「昔は見たのになあ。」というような状況ではもう遅いということです。それ以外ではスギがすごく増えて背が高くなったと思います。

—— 自然を楽しむ人に一言お願いします。

みんな穏やかに楽しく生きたいいいです。これはシェアリングネイチャーの目的でもあります。誰かに勝とうとか思わなくていいと思います。そうすれば自分を否定せずに肯定的に見られるようになると思います。自分たちが今楽しく生きていることを前面に出



していれば、周りに伝わっていくと思うのです。「これはダメだ」とか否定したり「〇〇のために」とか気負わないで、住んでいる地域の自然や文化など、こんないいところがあるとそれぞれの良いところを楽しんでいけば良いと思います。

(※1) 1973年に作られた各地のナチュラリストクラブをまとめる組織。現在、会員は日本自然保護協会やシェアリングネイチャーなどに籍を置いている。

(※2) 1917年生まれ。山形県西川町大井沢に生まれる。磐梯朝日国立公園の朝日地域の管理人や朝日連峰遭難救助隊、地元猟友会会長などを歴任。自然保護への功労により1989年勲六等単光旭日章受章。2016年5月100歳の天寿を全うした。

(※3) 「人が自然を尊重し共生していく社会をつくる」ことを目標に掲げ、ネイチャーゲームをはじめとした自然体験プログラムを通して、Sharing Nature Life ～自然を楽しむ、自然と遊び、自然から学ぶよろこびに満たされた生活～を送る人々をふやす活動が続けている。1986年に日本ナチュラリスト協会が、米国より創始者であるコーネル氏の著書「Sharing Nature with Children」を翻訳出版し日本に紹介した。

イベント開催報告

○特別企画展示「鳥類施設無謀にも恐竜を飾る」

6月16日(土)～9月9日(日)までの約3か月にわたって、「鳥類施設無謀にも恐竜を飾る」と題して特別展示を開催しました。展示タイトルや内容は、森林総研の鳥類学者、川上和人先生による著書「鳥類学者無謀にも恐竜を語る」を使用させていただきました。メイン展示としてアジアに生息した大型肉食恐竜「タルボサウルス」を展示し、始祖鳥やスピノサウルスの歯など100点に及ぶ資料を展示しました。本の中から「恐竜に毒はあったか?」や「子育てをしたか?」など現生鳥類と比較しながら、実際の資料を交えて面白おかしく展示しました。本物の恐竜化石に触るコーナーや、骨格標本クイズなども設置して、多くの来場者を楽しみながら学んでもらうことができましたと思います。来館者数も例年の倍となり、SNSなどでも取り上げられて大きな話題となりました。展示にあたって協力いただいた、川上和人先生、国府田良樹先生、各博物館の皆さん、来場してくれた皆さんありがとうございました。



タルボサウルス全身骨格



○自由研究対策企画「昆虫採集と標本を作ろう」

7月22日(日)に昨年開催して好評を得た、昆虫採集会を「昆虫採集と標本を作ろう」と題して開催しました。夏休みの子供たちは宿題の他にも自由研究をしなければならないということで、虫に興味のある子供たちに、昆虫採集と標本づくりをしてもらって宿題を一つ終わらせようという企画の意図がありました。参加者からはチョウの気絶のさせ方にドキドキしたことや、クワガタを捕まえられてうれしかったなど感想が寄せられました。イベント開催にあたって協力いただいた庄内昆虫同好会の皆さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。



虫を追う子供たち



真剣に命と向き合う

○「夏休み体験プログラム」

7月23日(月)～8月19日(日)まで、毎年恒例の「夏休み体験プログラム」を開催しました。今年はいくまでのレギュラープログラムの他に、恐竜展の開催に合わせた「化石の消しゴムづくり」を期間中毎日開催しました。

1週目は、米沢市の特産品「お鷹ぼっぼの絵付け」で猛禽類の体の特徴を知ってもらいました。2週目の「ドリームキャッチャー作り」では、猛禽類の羽を通した人と鳥類の文化について知ってもらいました。3週目の「エコバッグ作り」では、体験を通して葉っぱの多様性について学んでもらいました。4週目は「蜜ろうそく作り」で、ミツバチがもたらす生態系サービスを体験してもらいました。化石消しゴムづくりも大変な人気で期間中本当に多くの家族が参加してくれました。デザインにこだわって作っていく人も多く、オリジナリティあふれる消しゴムになったと思います。

今年は全プログラムトータルで、過去最高となる700人近くが参加してくれました。イベントに協力してくれた皆さんありがとうございました。



お鷹ぼっぼの絵付け



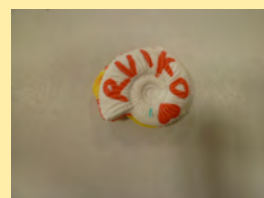
ドリームキャッチャー作り



エコバッグ作り



蜜ろうそく作り



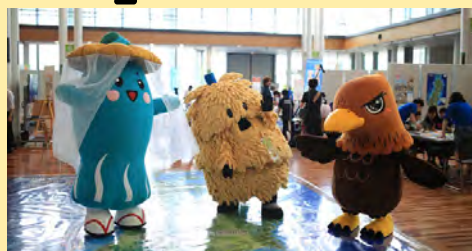
化石の消しゴムづくり

○出張展示「まるごと秋田のジオパーク」

7月26日(木)秋田県秋田市のアルヴェにて開催された「まるごと秋田のジオパーク」に出展させていただきました。

秋田県は認定ジオパークを4か所も有する、東北で最も盛りあがっている地域です。鳥海イヌワシみらい館のある鳥海山も2016年に山形県では初の「鳥海山・飛島ジオパーク」として認定されました。

当日の会場では、秋田県4つのジオパークが一堂に会し、それぞれのジオパークの見所を案内したほか、体験ワークショップなどで楽しく来場者に魅力を伝えました。鳥海イヌワシみらい館も、イヌワシの生態について知ってもらう展示をしました。宮城県栗原市から出展した栗駒山麓ジオパークの「ねじりほんによ」や秋田県湯沢市のゆざわジオパークの「しずこまち」、鳥海イヌワシみらい館のワッシーくんも登場し会場を盛り上げました。秋田県ジオパーク連絡協議会の皆さん、来場してくれた皆さんありがとうございました。



左から「しずこまち」「ねじりほんによ」「ワッシーくん」



○出張展示「山形大学 小白川キャンパス 八峰祭」

10月20日(土)・21日(日)に山形市にある山形大学小白川キャンパスにて開催された大学祭「八峰祭」に出展させていただきました。

鳥海イヌワシみらい館の来場者は家族連れが多く、高校生・大学生の来場者が極端に少ないということもあって、今回鳥海イヌワシみらい館のPRと、イヌワシの生態と保護について知ってもらうための展示をさせていただきました。来場者は、設置した「はてなボックス」をおっかなびっくり体験しながらも、体験者がもらえるストラップのプレゼントに喜んでいました。出店ブースではワッシーくんも練り歩いて、多くの学生たちに写真を撮影されました。拡散効果にも期待したいと思います。来場してくれた皆さん、八峰祭実行委員の皆さんありがとうございました。



箱の中身についてヒントをもらう来場者



イヌワシの視力体験

○出張展示「やまがた環境展2018」

10月27日(土)・28日(日)は山形市ビッグウイングで開催された「やまがた環境展2018」に出展しました。

今年は初めてミサゴの魚取り装置(ミサゴキャッチャー)を運搬し設置しました。ミサゴキャッチャーはミサゴの持つ「(可変)対趾足」とイヌワシなどの持つ「三前趾足」で、同じ力であった場合に、滑りやすい魚をどちらがつかみやすいのか知ることができる実験型体験装置です。子供たちの行列ができましたが、イヌワシの足ではどうしても捕まえることができず泣いてしまう子もありました。ミサゴの足で魚を捕まえてスッキリしてくれました。

昨年も来場して顔なじみになった人もいて、今年も面白いねと感想をいただきました。

会場にはワッシーくんも登場して子供たちとの記念撮影などに応じていました。

来場してくれた皆さんありがとうございました。



ミサゴキャッチャー



展示ブースとワッシーくん



蜂蜜の森から 第7回「アシナガバチ移住作戦スタート！」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第7回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



はしもと農園に設置したアシナガバチの巣箱



箱の中で家族を増やすアシナガバチ

前号で駆除を頼まれたアシナガバチを、ベランダに巣ごと移住させた話を書きましたが、その後私はさらに試行錯誤を繰り返し、全国にこの方法を広めるべく活動を始めました。期待することは3つあります。

1つ目は志のある無農薬栽培農家のサポートです。アシナガバチは畑の害虫のイモムシ類をたくさん獲ってくれるのです。事実、この夏友人の無農薬畑に15群アシナガバチを移住させ、イモムシ被害を減少させることができました。危険な作業と思われる方もいらっしゃると思いますが、春先の女王バチ一匹での営巣時なら刺してはこないのです、誰でも安全に捕獲できるので。

2つ目は殺虫剤で安易に駆除されがちなアシナガバチの保護です。近頃はミツバチ同様アシナガバチも減っています。アシナガバチは相当巣に近づかない限り襲ってきません。50cm手前で観察しても、羽や脚を動かして威嚇はしますが襲っては来ません。ですから軒下のアシナガバチが人を襲うことはまずないのです。まして、畑や庭で飛び回っているハチが人を刺すことは絶対にありません。益虫であることが分かり、「駆除しないでおう」と思う

優しい価値観が広がってほしいものです。

そして3つ目はアシナガバチとイモムシの関係を知ることにより、自然全体の優れた調和や循環を見つめなおすきっかけにもらえるのではという期待です。

経済優先の日本は、行き過ぎた殺虫・殺菌文化が田畑のみならず生活の場にもはびこってしまったように思います。それが環境を壊すのみならず、私たちの健康までも害しているように思えてならないのです。

「アシナガバチ移住プロジェクト」のブログ
<https://ameblo.jp/asinagapi/>



安藤竜二 (あんど う りゅうじ)
 1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソク製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』（朝日町エコミュージアム研究会発行）



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

北海道に行ってきました。海鳥センターおすすめです。ぜひイベントのある時に行ってみてください！(本)

希少種保護増殖等専門員

イヌワシの繁殖活動への影響として「気候変動」も無視できない。来年の抱卵期までは雪の降り方にも注目したい(長)

事務局

白いものがおいしくなると空から白いものが降ってくる。山形の冬そのものです。温まるものを摂って寒い冬を乗り切りましょう！(村)

鳥海南麓自然保護官

直接触れるイヌワシの剥製を展示しました。鋭いくちばしや爪を触ってみてイヌワシのすごさを体感しよう！(澤)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 11月～12月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・12月より火曜日、12月29～1月3日

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

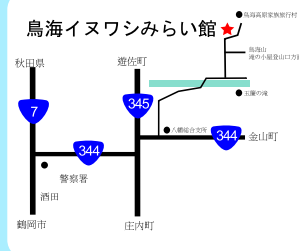
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.28 秋号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)